OB通信

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部ＯＢ会
平成１１年度１２月№２
発行：〒７５３－０８４１
山口市吉田１６７７－１
山口大学体育会ワンダーフォーゲル部
ＯＢ会事務局

◎はじめに

師走の候、ＯＢの皆様におかれましてはますます御健勝のことと御慶び申し上げます。今年度ＯＢ通信第２号が出来上がりましたので、お手元にお届けいたします。ＯＢ通信の内容が皆様に喜んでいただけたら幸いです。

ＯＢ会の活動について

（１）　ＯＢ総会

今年度ＯＢ総会を下記の通り開催することとなりました。今年度会計報告、新ＯＢ紹介等を予定しております。御忙しいとは存じますが、お誘い合わせの上奮ってご参加下さりますようお願い申し上げます。

【日時】平成12年1月8日(土)１５：３０～
【場所】太陽堂旅館(山口市道場門前、℡０８３－９２２－０８９７)

なお、御出欠の確認をさせていただきたいので、同封いたしましたハガキにて今月中に御知らせ下さりますようお願い申し上げます。詳細につきましては、私、福山英生（０８３－９２０－０５７４）までお願いいたします。

また、同日１９：００より追コンも行います。こちらもご参加くだされば幸いです。

（2）　ＯＢ会費

今年度ＯＢ会費を納入してくださった方々をご紹介いたします。一括納入していただいた方には、会費納入済み年度の数字を( )内に記してあります。また、今年度分会費を納入していただいている方には、会費納入状況をお知らせする紙を同封いたしましたのでご参照ください。

・一括納入

第５期　秋山邦雄（２０）
第５期　木山克彦（１２）
第８期　武富敏夫（１５）
第１５期　村上文明（１５）
第１７期　八谷孝徳（１５）
第２３期　川原　修（１５）
第２９期　金丸直子（１５）
第３１期　笠間博子（１５）
第３３期　万年芳昭（１５）
第３７期　内田幸子（１５）
第５期　石松宏紀（１５）
第６期　坂口憲一（１５）
第８期　箱田貴代子（１７）
第１６期　田村浩三（１５）
第２２期　大田　剛（１５）
第２６期　小西明子（１５）
第３１期　金丸公宣（１５）
第３２期　原　秀樹（１４）
第３６期　直原俊介（１５）
第３７期　桑原孝司（１５）

敬称略

・今年度分納入

第５期　吉永哲也
第１５期　木下信一
第２１期　中小路美津子
第２５期　三浦みほ
第２７期　小川賢司
第３０期　吉本説子
第３７期　岡崎享治
第８期　久保博務
第１７期　浜野　宏
第２２期　渡辺浩幸
第２７期　有馬章治
第２８期　増田ひとみ
第３４期　加藤由貴子
第３７期　野口千恵
第１０期　真田義子
第２１期　中小路宗俊
第２５期　野上貴行
第２７期　江本真季
第２９期　吉本有希
第３４期　林　久博
第３７期　渡部　玄

敬称略

（3）振り込みについて

先日ご案内をさしあげましたが、今年度ＯＢ会費を納入されてない方は下記へ納入して下さりますようお願い申し上げます。

郵便局：０１５３０－０－１６０５０
山口大学ワンダーフォーゲル部

なお、第一勧業銀行の口座は利用される方がいらっしゃいませんので解約したいと思っています。この点に関し御意見等ございましたら事務局までお願いします。

また、会費納入は１年分納入、５年分一括納入のどちらかで御支払い下さりますようお願い申し上げます。

・１年分会費 ---------- ２,０００円

・５年分一括納入 -------- １０,０００円

※会費を口座に振り込んでくださる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、御手数ですが払込用紙を使って会費を納入して下さりますようお願い申し上げます。

（３） ＯＢ名簿について

前回お届けしましたＯＢ名簿で記載事項の誤り、変更等がありましたので、訂正をお願いいたします。(敬称略)

５期：秋山邦雄 ℡０９３－５６１－８１６３

５期：石松宏紀 〒８００－０２０７
北九州市小倉南区沼緑町５－１１－５
℡０９３－４７３－６０１０

５期：平原稔久 光市室積１－６－２２

６期：坂口憲一 〒８９１－０１４４
鹿児島市下福元町７０６３－２８
℡０９９－２６１－９４４０

６期：米沢和彦 熊本市長嶺南２－８－４７

７期：寺町常治 日立市小木津町４－４２－１
℡０２９４－４２－１５７４

７期：長野浅芳(名簿もれ) 〒１８５－００３２
国分寺市日吉町２－２８－４４

８期：久保博務 〒５００－８３８９
岐阜市本庄３６８０－１５本庄社宅１－５０３

８期：武富敏夫　℡０４７－４３７－４０１１

８期：山岡鐵舟　北九州市戸畑区小芝３－８－９－５０２

℡０９３－８６１－２００２　０９３－８８３－３８３３

１１期：上田　功　〒１５０－００１２

東京都渋谷区広尾３－８－１７－３０１

℡０３－３４８６－０２４２

２０期：長谷雄敏郎　〒５６５－０８３４

大阪府吹田市五月ヶ丘北６－２６－１１０

℡０６－６８７５－１２０６

２２期：大田　剛　〒７３１－５１３６

広島市佐伯区楽々園６－６－６

℡０８２－９２４－０３６９

２５期：三浦みほ　青森市波館泉川５－５０

２７期：江本真季　〒２４５－００１２

℡０４５－８０６－４３５３

２８期：井上久之　〒７３９－２１０２

東広島市高屋町大字杵原４００５－５３

℡０８２４－３９－１３６９

２８期：藤井秀之　〒７５１－０８０６

下関市一の宮町３－１２－２２－５０３

℡０８３２－５７－２０７３

３１期：笠間(守田)博子　〒３５１－０１０６

埼玉県和光市広沢１－９－３０８

℡０４８－４６１－２６８５

３３期：万年芳昭　〒６５０－００１１

神戸市中央区下山平通８－１１－１４－３０１

℡０７８－３６０－０２４８

３４期：加藤(田中)由貴子

徳山市戸田１５９９－５

℡０８３４－８３－４０８２

３７期：岡崎享治　℡０９０－９４１０－２４２１

夏合宿結果報告

北アルプス Party

１９９９年の夏合宿は、南北アルプス２パーティに分かれて行いました。昨年は３パーティー作れたのですが、今年は上級生の人数が少ないため２パーティーしか作れませんでした。パーティー数が減り、山域も減ったので下級生の選択肢が２つしかなく、少しかわいそうでした。また、１パーティー当たりの人数も８人、１０人と大所帯で、そのこと自体も問題だったのですが、それ以上にパーティーを構成する男女比が同じであると言うことが一番の問題でした。というのは、上級生は基本的に荷物を持たなければなりませんが、上級生のオッチェンの人数が少ないのに例年と同じ位の長さの山行ができるのかという部分に不安がありました。ただでさえここ数年ではオッチェンとメッチェンの体力差が心配されていたところだったのです。しかし、４月からのトレーニングでメッチェンの体力の底上げを目標に頑張ってきたので大丈夫だろうと思い、結局２パーティーとも６泊７日で計画を立てました。自分自身１・２年生のときはＰＬさん、上級生についていくだけの夏合宿でしたが、今回は自分の肩に下級生に対する責任がかかっていると思うと、中途半端なことはできないというプレッシャーのようなものがありました。しかし、準備段階のパーティーミーティングやトレーニングをこなしていく中で、特に１年生のやる気と元気に相当助けられました。彼らに良い刺激を受けながら非常に充実した準備期間を過ごし、意気揚揚と合宿に出発しました。週間予報や天気図などから当分の間天気は良さそうでした。今回の合宿のコースは、折立～太郎平～黒部五郎岳～双六岳～槍ヶ岳～大天井岳～常念岳～一ノ沢に下る、ほとんどが縦走形式の６泊７日でした。個人的には双六小屋～槍ヶ岳～大天井岳のコースは１年生の合宿で行ったことがありましたが、天候に恵まれなかったので展望はほとんどありませんでした。ですから、もう１度槍ヶ岳のピークに立って３６０度のパノラマを眺めたい、という気持ちからこのコースを立てました。

アプローチで折立キャンプ場に到着し、次の日からの行程に備えてぐっすり休みました。行程１日目の天気は、行程中は少し曇っていましたが、テン場に着いてからは太陽がぎらぎらと照ってきて、オッチェンの顔は真っ赤に焼けていました。１年生は初めて見るアルプスの景色に少々興奮気味でした。行程２日目、楽しみにしていた黒

部五郎岳に登る日だったのですが、時折日が差すもののガスが多くピークからの展望はゼロでした。行程３日目、前日見ることができなかった黒部五郎岳を背に、快晴の中を双六目指して前進しました。前方に裏銀座の水晶岳、鷲羽岳が見え、後方には薬師岳、黒部五郎岳、左手には雲ノ平、さらにその向こうには立山連峰が望めました。そして、三俣蓮華岳を経て双六岳ピークに立ったときの展望がこの合宿で一番印象に残るものとなりました。双六岳の丸っこい尾根筋とは対照的に鋭くとがった槍ヶ岳の姿が、写真で見たそのままで感動しました。１年生はそこから見える槍ヶ岳を指差し、早く行きたいと口々に言っていました。行程４日目、今日はいよいよ槍ヶ岳、と言いたいところでしたが、起床した時にはもうすでに外は強風が吹き荒れており、テントが吹き飛ばされそうな勢いでした。この日は西鎌尾根を通る日で、危険箇所にもしていたので迷わず沈を決定しました。そして、この強風は３日間続き、結果双六で３沈することとなりました。そして３日間我慢した次の日、起床した時には風はおさまり、空には星が出ていました。今日こそは行けると思い、午前４時前にテン場を出発しました。しかし、テン場を出発してのすぐの急登で１人パーティーから遅れ始めました。ＰＬとしてその子の体力にはトレーニングをしていて少し不安があったのですが、やはり合宿中ずっと辛そうでした。足取りを見て危険箇所を通過するのは難しいと判断し、パーティーを途中で止め、無理やり強風を理由に双六へ引き返すよう指示を出しました。１年生たちは、風はそれほど強くないし、他の登山者はどんどん登って来ているのになぜだろう、という顔をしていましたが、うすうすは気がついていたようです。今でもあそこで引き返す判断をしたことは後悔していません。全コース行くことより大事なのは、メンバーを全員無事に下山させることです。それに、パーメンの中の１人でも景色を見ることができないほど体力的に辛いのなら、無理に進んでも意味がないと思ったからです。双六小屋に引き返し、そのまま新穂高温泉に下山して、合宿を終了しました。新穂高温泉で電話連絡をした時のあの安堵感は今でも忘れられません。パーメン全員がおいしそうに下山ビールを飲んでいる顔を見て、本当にほっとしました。

結局本来の計画の半分ほど行ったところで私の夏合宿は終了したわけですが、素晴らしい景色を見ることができたので良かったと思っています。それに、沈をしている間でも決してつまらなそうにしているわけではなく、皆楽しいことを言い合ったりして良い雰囲気でした。アルプスで過ごす時を楽しんでいるのが良く伝わってきて、ＰＬとしては本当に慰められました。今回の合宿を通して考えさせられたことがたくさんありますが、その中でも今後の課題となるであろうと思われるのが、男女の体力差

についてです。その差をいかに埋めるかではなく、いかにフォローして全員が楽しめる合宿を作るかが重要ではないかと思います。今回他のメンバーに遅れ、景色を見る余裕も無かったあるメッチェンの精神的・肉体的苦痛はかなりのものだったと思います。自分が足を引っ張っているのだ、と申し訳なく思っている気持ちが、痛いほど伝わってきました。合宿に出発する前の段階で、たとえ天気が良くても全コースは行けないだろうとは思っていましたが、やはり終わってみて少し寂しい気持ちもあります。自分の計画段階での見通しが甘かったせいでこのような結果になってしまったことが悔やまれます。全コース行けなかったことで、下級生の長期山行の経験が不足する結果になったことは事実です。今後ＰＬをすることになる人たちにはそういう点にも注意して計画を立ててほしいと思います。

ＰＬ　河名　尚子

南アルプス Party

今回の合宿は、雨男の自分がいる割には言い天気の日が多く、南アルプスの自然を満喫でき、思い出に残る良い合宿だったと思います。計画段階では、４年生の方々にお叱りと御助言をいただき、また執行部皆の支えがあって、やっとこさ合宿に行けたと言う感じでした。本当に感謝してもしきれません。

この合宿で１番心配だったのが、１０人という大所帯でテント生活がきちんとできるのかということでした。やはり、最初のうちは何もせずボーとしている者もいましたが、慣れてくるに従って、朝のパッキングもどんどん速くなっていきました。合宿中の１年生の成長は目を見張るものがありました。最後には、確保する姿さえ頼もしく見えました。

さて、合宿はといいますと、アプローチでは近所のおばさんが「夜寒いから」と言っていたのに、とても暑く汗をびっしょりかくはめになってしまいました。あのおば山は何だったのでしょうか。１日目は大門沢小屋までしつこく付きまとうおじさんを振り払うように行った為か予定より早く小屋に着きました。この日は晴れていて時々見える富士山が印象的でした。２日目はひたすら登りで、稜線上はガスで最悪でした。しかし、テン場で見た赤富士は一生忘れられません。三日目は快晴で間ノ岳ではゆっくりし、１年生全員のストームを鑑賞しました。４日目はいよいよ北岳へ。しかし、天気はあまり良くなく、下山を開始したとたんガスってしまいました。５日目はひたすらロードでしたが、すごいハイペースでだれる暇もありませんでした。６日目は沈。７日目は快晴の中、甲斐駒ケ岳を目指しました。今回の合宿で１番感動したのは、摩

利支天に立ったときの３６０度のパノラマでした。最終日は仙丈へ。この日も快晴で、ピークでは何故か全員ストームをしました。やたらストームをするパーティーでした。(多分全てのピークでやりました)最後は惰性で下山しました。

今回の合宿は、自分にとって最後の夏合宿だったのですが、１年の時東北、２年で北アルプス、そして３年で南アルプスと３つの異なる山域に行くことができとても良い経験ができました。ワンゲルに感謝です。

PL　堀野　康平

アフター結果報告

南アルプス南部

今回、南アルプス南部、荒川三山、赤石岳でアフターを行いました。とりあえず、全員無事に、そして楽しい思い出を持って下山できたことをとてもうれしく思います。多少きつめのコースだったのですが、今ではつらかったことは（あまり）思い出さず、充実し、仲間と一緒に過ごす喜びを味わえた素晴らしい時間でした。

アプローチの前日は、松本駅でステーションしました。翌日、伊那大島駅へ電車で向かい、この駅で福山さんと合流しました。福山さんは、４年生であるにもかかわらずこの山行に参加していただきとても感謝しています。山口から長野まで１８切符で来るのは大変だったでしょう。P-men が全員そろい、バスに乗って登山口の塩川小屋へ。ここで一泊しました。スペシャルエッセンのもつ鍋をやや食い地獄になりつつ食べたのを思い出します。そして、いよいよ山行開始。１日目は、いきなり１３００ｍアップし、三伏峠を目指しました。この日は雨がしとしとと降り続け、ただつらいだけでした。２日目は、雨が降っていたのと台風接近のため沈としました。３日目には、天気が回復し、三伏峠を出発し、烏帽子岳で１本とっていると、偶然御来光を見ることができました。モルゲンロートの峰峰から暖かい光と一緒に顔を出した太陽はとても印象に残っています。この日は気持ち良く稜線を歩き、歩き、小河内岳を通過してテン場の高山裏避難小屋に着きました。そして、気持ち良く眠りについたのでした。４日目は快晴。荒川三山、前岳手前のカールを一気に登り、３６０度の展望。名も無い岩場で全員しばしくつろぎました。そして、いよいよ前岳、中岳、悪沢岳を登り、特に悪沢岳はその大きさと重量感に息をのみました。この日は小屋泊まりで贅沢な気

分を味わいました。最終日の５日目は、熱帯低気圧が接近していたため天気は崩れ、風が強かったため赤石岳ピストンをカットし走るように下山、椹島ロッジに到着。アフターを終了しました。ワンゲル２年目でまた新たな経験をすることができました。この経験を今後に生かしていきたいと思います。

ＰＬ　峠岡　公久

富士山

８月５日から１泊２日で、富士登山の計画を立てました。日本一の高さの所から御来光を拝んで見たかったのですが、天気はずっと不安定でした。予備を使って天候の回復を待ったのですが、残念ながら回復せず、計画を断念しました。

今回のアフターは残念な結果となってしまいましたが、計画を立てる際に苦労したことや、PLとして物事を決定する際に考えたことはきっとこれから役に立つと思っています。

PL　下村　公子

１年生合宿

今年の１年生合宿も、昨年２回生の方が行かれた美ヶ原高原に行きました。行程は昨年の先輩が立てられたものを参考にしながら自分なりに少し変化を加えて立ててみました。

１日目：松本～三城～広小場～茶臼山～美しの塔～塩くれ場～広小場～三城

２日目：三城～広小場～塩くれ場～王ヶ頭～王ヶ鼻

３日目：三城～松本

以上のような行程で合宿を行いました。計画を立てた段階では、参考にしていたアルペンガイドに書いてあるコースタイムから１時までにテン場に戻れないのではないかと思いましたが、１日目は２時間ぐらい、２日目は３時間ぐらい短縮でき問題無く下山できました。

今回、新しく加えた茶臼山への行程は思ったよりもきつく、しかも山頂には何もなく、またガスも出て眺めも良くなかったので不評でした。好評だった行程としては、見所にしていた王ヶ鼻でした。王ヶ鼻は足元から急にきれ落ちている斜面の向こうに松本平や北アルプスが素晴らしかったです。

責任者　林　寛

第３９期執行部近況報

今年度夏合宿も無事終わり、第３９期執行部も本格的に春合宿に向けて始動しています。幹部交代当初は何かと不安なことも多かったのですが、夏合宿という一つのハードルを越え、執行部の結束も深まり、やっと真の先輩になり得たような気がします。

今年の夏合宿は、２パーティーとも日本アルプスで行いました。３パーティーを予定していたのですが、上級生の人数不足からやむなく２パーティーとしました。しかし、１パーティー当たりの人数が多くなり、積極的な１年生が多かったせいか、両パーティーとも活気のあるパーティーとなりました。３年生になってよく感じることなのですが、下級生に刺激されるということは意外と多いものです。今回の夏合宿は、「基本的山行技術の獲得」、「長期山行を通して美しく、そして雄大なアルプスの自然を体感する」、「部員の相互理解を深め、意識の高揚を図る」、という大きな目的を掲げて進めていきました。厳しい自然状況の中でやむなくコースカットしたパーティーもありましたが、日々のトレーニング、ミーティングや錬成、そして日本アルプスという大自然の中で目的は達成できたと思っています。そして今年は、久しぶりに夏合宿後に安曇野で集中を行い、顔を赤らめて合宿の思い出を語り合いました。

毎年後期、特に９月から１１月にかけての悩みの種かもしれませんが、部員の一時的なワンゲル離れ、つまり中だるみを心配していました。しかし、今年に限って言えば、それは無かったように思います。理由は行事を多く入れたことと、F.W 計画者が多かったからだと思います。体育会への積極的な参加ということで、体育会が主催するバレーボールマッチや体育祭に参加しました。今年４年振りに復活した８０ｋｍ耐久徒歩にも参加し、部員たちにとっては良い思い出になったことと思います。また、後期からは１・２年生の積極的な参加が目立ち、執行部としては頼もしい限りです。

我々の任期も残り少なくなり、最高の形で４０期にバトンタッチすることを大きな目標としています。多くの問題が山積していることも確かです。その一つとして、部員数の減少が挙げられます。部の活気は１人１人の自覚も大切ですが、部員数によって左右されるのも事実です。今後部員の増加と部の発展を願ってやまない今日この頃です。

第３９期主将　有馬　啓介

春合宿コース紹介

九重 Party

今回の春合宿では、九州の屋根とも呼ばれて入る九重連山で行うことを予定しています。今回の合宿で、自分は6度目の九重になります。どの時期でも、何度行っても九重は常に慈母のようであり、新しい感動を呼び起こしてくれます。自分と九重の出会いは、１４才の時でした。初めて本格的な山登りをした自分は、その雄大さに心を打たれました。あの時九重連山から見た久住高原、そして阿蘇のカルデラは今も脳裏に焼き付いています。

今回の合宿は、５泊６日で行う予定です。九重という山域ではピストンが多くなりがちですが、今回はなるべく縦走的な要素を取り入れました。久住山は牧ノ戸峠から目指します。

６度目の九重、そしてPLとして九重へ行くこと。これは自分に山登りの楽しさを教えてくれ、ワンダーフォーゲル部に入部するきっかけを与えてくれた九重への恩返しでもあります。

PL　有馬　啓介

西表島 Party

今回の合宿で、西表島に行こうと考えています。現段階では、アプローチで１泊２日、山中６泊７日で行おうと思っています。コースは、南風見田の浜から東西横断道を歩き、白浜から船に乗ってウラダ川河口まで行き、南風見田の浜まで戻ってくるコースです。

今回の合宿を西表島で行おうと決めた理由は、ここ２年西表島で合宿が行われておらず、このまま西表島での合宿を絶やさないようにと考えたことと、とにかく南の島に行きたいと考えたからです。そして、西表島について調べてみると多くの魅力があることが分かりました。東西横断道では、見たことが無いマングローブの林を見ることができ、カンピレーの滝、マリウドゥの滝などを見ることができ、海岸歩きでは、特にリーフ歩きが楽しみです。

逆に驚いたことは、アプローチが長いということです。フェリーにすると３，４日かかり、P-men が緊張感を無くしてしまうのではないかと思い、飛行機を使うことに

しました。

まだまだ西表島について調査中ですが、これからもっと良く調べて充実した合宿にしたいと思っています。とにかく晴れてくれれば、最高の合宿になると思いますので、晴れることを祈るのみです。

PL　大宅　貴子

サバイバル Party

今回のサバイバルの形式はまだ具体的には決めていませんが、やりがいのあるものにしたいと考えています。食事をまともに取らないため無気力状態に陥ってしまうところがあるので、自分で食料を得る満足感のようなものを感じることができるサバイバルにしたいです。

今年の夏合宿でも問題となった部員の体力不足という点を考えれば、登山やトレッキングを増やして、問題の解決を図ることも考えましたが、サバイバルが決して楽だというのではなく、基礎体力は他と同じ位、あるいはそれ以上必要だと考え、サバイバルを立てました。ですから、P-men には頑張ってもらおうと思っています。ワンゲル生活最後の合宿を悔いの無いものにするため、あと少し頑張ろうと思っています。

PL　河名　尚子

○最後に

OB 通信第２号もようやく完成し、やっと全ての事から解放されるような気がしています。思えば、入部した当初は OB 会の事務を務めることになろうとは思いもよりませんでした。１年間 OB 会の仕事をして感じたことは、現在の OB 会の活動内容、つまり OB 通信を通しての現役部員の活動報告を行うだけであるならば、４年生よりやはり現役部員が OB 通信の編集等を行ったほうが良いと考えます。また、現在のＯＢ会の運営は、前主将１人によって行われておりあまりにも負担が大きすぎるように思います。この不況の折、年々学生の就職状況は悪化しており、ワンゲルも例外ではありません。ＯＢ通信を発行する７月は、公務員・教員採用試験の直前であり追いこみの時期です。企業の採用状況の悪化がますます予想される中、学生の公務員志向はますます強くなっていくと思います。また、就職活動の開始時期も年々早まっており、幹部交代の時期とともにＯＢ会のあり方も真剣に考えていかねばならないのではないかと感じています。

平成１１年１２月　福山　美生